

日本塗装機械工業会 会長 壺田貴弘

新年あけましておめでとうございます。

さて、昨年は世界が新型コロナウイルス禍という未曾有の大惨事に遇い、当工業会におきましても、総会などの会合は全てWEB化とするなど実質的な活動が一時停滞いたしました。

昨年は2016年度に引き続き2度目の会長を拝命し、2030年に向けて大幅な組織改革を行い会員ともどもSDGsの具体的な目標設定などに取りかかった所でした。即ち、21世紀3ビジョン（①塗装の価値創造・展開 ②地球環境の保全 ③共生と共栄）を原点として21世紀の20年間活動をしてきましたが、今後10年間はSDGsの具体的な活動を展開していくことにいたしました。特に12番の「つくる責任 つかう責任」の項での塗装機、塗装設備を安全で環境に配慮し、なお且つ、低コストで塗装できるものを作る責任がCEMAにはありますので、つかう立場での皆様のご要望、ご意見を遠慮無くぶつけて頂きたいとお願い申し上げます。

貴会の各工業塗装組合様とは2005年のVOC規制以後、協働で対策を進めて参りましたが、長期的には2050年カーボンゼロの目標に対しても塗装ラインの省エネなどに再度協働して取り組みたいと思います。

今年はオリンピックも予定されており、日本人には明るさが戻り経済状況も好転するものと思われますので、塗料・塗装のニーズも拡大が期待されます。日本の少子高齢化など長期的な課題も含めて、塗装の在り方を皆様方とともに探索し、10年先である2030年に向かって塗装機械面での役割を果たして参ります。世界の政治、経済状況も、大きな転換が予想されますが、CEMAはモノ作りの原点を忘れずに業界発展に全力を尽くして参りますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、皆様方のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。